

令和5年3月30日

上越市議会

議長 石田 裕一様

広報広聴委員会

委員長 小林 和孝

広報広聴活動に関する取組について（答申）

令和4年7月21日に諮問された広報広聴活動に関する取組について、下記のとおり答申します。

記

1 はじめに

諮問事項について少人数で機動的に検討するため、広報広聴委員会内に企画部会を新たに設置し、検討を行った。企画部会は、「新しい取組に何でも着手する前に、まずは議会に関心を持ってもらえるような取組を着実に進めること」を基本的な考え方に据えて検討し、当委員会に検討結果の報告を行った。

なお、企画部会は諮問事項と合わせてすべての広報広聴活動を見直す必要があると考え、別紙のとおり課題に対する対応案と今後の方針をまとめた。この対応案と今後の方針については、今後当委員会において検討を継続していく。

2 諮問事項に対する検討結果

(1) 議会報告会・意見交換会等の手法を見直すこと

- ・ 正副委員長が理事者のような答弁をするのではなく、議員一人ひとりが議会活動に意見を反映させるため、全議員が意見交換に参加する。
- ・ 当初、議会報告会と意見交換会を合わせて開催することにより参加者の増加を図ったが、そもそもニーズが異なるため、議会報告会と意見交換会を分けて開催する。
- ・ 議会に関心がない人の目に触れる機会となるよう意見交換会を新たな会場で開催し、指定の会場に来てもらうのではなく、議員が人の集まる場所に出向く。
- ・ 意見交換会について、市民から行政への要望会ではなく、意見を交換する場にするため、グループで議論する形式とする。

(2) 市民が自由な意見を表明する「市民議会」の実施を検討すること

- ・ 市民議会は実施しない。
- ・ 既存の意見交換会の取組を強化する。

- (3) 議会モニターについて、市民議会の検討と合わせて、様々な手法・形を検討すること
- ・ 議会モニターは休止し、必要に応じて実施する。
 - ・ 現在実施している議会傍聴者へのアンケートを議会運営に活用していく。
- (4) 模擬議会について、市民議会の検討と合わせて、これまでの取組を検証し、方向を整理すること
- ・ 模擬議会実施に当たっての学校側の負担が大きいため、休止する。
 - ・ 学校側にとって負担が少ない小中学生の議会学習を強化する。

(別紙) 広報広聴活動の課題に対する対応案と今後の方針

	課題	課題に対する対応案	今後の方針	
広報活動	模擬議会	○学校側の負担が大きい。 ○1回の取組の波及効果が低い。	○学校側の負担が少ない小中学生の議会学習を強化して取り組む。	○休止する。 ○小中学生の議会学習を強化する。
	議会ホームページ	○課題なし	—	○見直しの必要なし
	議会だより	○市民に議会だよりは身近でない。 ○一般質問の文字数が多い。 ○縦書きと横書きが混在して見にくい。	○一般質問の文字数を減らす。 ○一般質問をした背景などを掲載する。 ○定例会の流れを特集記事にする。 ○横書きに統一する。	○広報広聴委員会で検討する。
	SNS	○SNSはフォローされないと意味がない。 ○我々の広報をどの層に届けたいのか決めないと、どのSNSを活用すべきか決まらない。	○できるものは全部やるのも大切だが、我々の広報をどの層に届けたいのか明確にした上で、必要なものに着手すべきである。 ○議会だよりの動画版をYouTubeにアップする。 ○Instagramは着手しない。 ○Facebookをやめる。 ○市の公式LINEを活用する。	○広報広聴委員会で検討する。
	本会議・委員会動画配信	○課題なし	—	○見直しの必要なし
	小中学生の議会学習	○毎年同じ学校からの申込みばかりで、新規の申込みが少ない。	○各学校の代表生徒を集めて開催する。 ○教員向けに開催し、まずは教員に良さを知らせよう。 ○謙信KIDSプロジェクトの講座一覧に入れてもらう。 ○親子を対象に開催する。 ○議会学習の中身の精度を上げる。	○中身の精度を上げる。 ○新規の申込みを獲得するための手法を検討する。
	その他	○市民の議会への関心が低い。	○議場音楽会を開催する。 ○議場に花を飾る。 ○議員用ポロシャツを作成し、服装を揃える。	○広報広聴委員会で検討する。

(別紙) 広報広聴活動の課題に対する対応案と今後の方針

	課題	課題に対する対応案	今後の方針
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">広聴活動</p> <p style="text-align: center;">議会報告会・意見交換会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市民は議員に、その場ですぐに理事者のような説明をしてほしいのではなく、議会で議論してほしいと思っている。 ○議会に関心が低い人の目に触れるような会場設定ができていない。 ○行政への要望会のようになっている。 ○意見交換会を目的に来ている人にとって、議会報告会は退屈。 ○意見交換会の時間が少ない。 ○市民の方が話しているのを遮って司会進行をするのは難しい。 ○若者にとって顔や名前、住所などの個人情報晒した上で、意見を発表するというシステムはハードルが高い。 	<p>【現在の取組の改善について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年ではなく4年で16区を回る。 ○個人の考えを述べてはいけないのであれば、全議員で対応してもいい。 ○議会報告は議会だよりで実施したことにする。 ○議会報告は事前に収録しておいて、各会場で同じものを上映する。 ○4人程度のグループ形式で意見交換する。 ○現在の参加者のニーズもあるため、継続すべきことは継続する。 <p>【新しい取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○議会カフェを開催する。 ○YouTubeや議場で議会報告会を開催する。 ○無印良品やオーレンプラザこどもセンターで開催する。議会の紹介映像を流したり、パネル展示したりする議会PRコーナーを設ける。 ○議会が高等学校や大学に出向いて意見交換をする。(各層との意見交換会) ○全高等学校から数名選出して意見交換する。 ○主婦や若者のためにオンラインで開催する。 <p>→○できる人とそうでない人がいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対面することが大切で、オンラインだと意見を交換することにならない。 ○若者は、面倒だからとか時間がないから参加しないのではなく、魅力を感じていないから参加しない。オンラインで開催するだけでは関心を持ってもらえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全議員が意見交換に参加する。 ○議会報告会と意見交換会を分けて開催する。 ○意見交換会を新たな会場で開催する。 ○意見交換会について、グループで議論する形式とする。

(別紙) 広報広聴活動の課題に対する対応案と今後の方針

	課題	課題に対する対応案	今後の方針
		<p>○何でも手法を増やすのは間違っている。まずは関心を広げる取組を進めてから、オンラインなどに着手する。</p> <p>【PRについて】</p> <p>○MJ インフォメーションを議場や高田城址公園で撮影する。ホームページに掲載する。</p> <p>○フォローしなくても見てもらえるように、Instagram ストーリーズに広告を出す。</p> <p>○議員が足を運んで人を集める。</p> <p>○街頭PRをする。</p>	
市民議会	<p>○様々な制約がある。</p> <p>○行政への要望会のようなものになってしまう。</p> <p>○選挙で選ばれていない人に議場での発言を許すのはどうなのか。</p>	<p>○座談会のようなイメージで開催する。</p> <p>○市民の声を拾い上げる仕組みは既にあるため、市民議会は必要ない。</p> <p>○市民議会の研究は続ける。</p>	<p>○市民議会は実施しない。</p> <p>○まずは今ある意見交換会を強化する。</p>
議会モニター	<p>○期ごとの会議開催回数が多いからか、参加者は減り、有用性の高い意見があまり得られない。</p> <p>○議会モニターの多くは、もともと議会に興味がある人のため、議会に関心がない人の意見を得られない。</p> <p>○平日の会議に頻繁に出席してもらう必要がある。</p> <p>○議員に意見をもらう場を議員自身がやめていいのか。</p> <p>○人選や会議の開催など負担がかなり大きい。</p>	<p>○取組を継続するのではなく、必要に応じて実施する。</p> <p>○現在実施している議会傍聴者へのアンケートを議会運営に活用する。</p>	<p>○休止する。</p> <p>○議会傍聴者へのアンケートを活用する。</p>

(別紙) 広報広聴活動の課題に対する対応案と今後の方針

	課題	課題に対する対応案	今後の方針
議会ポスト	○課題なし	—	○見直しの必要なし
各層との意見交換会	○意見へのフィードバックが不明瞭。 ○理事者側にとって提言書や意見書として意見を丸投げされても困るのでは。 ○ノルマ制のようになってしまっているのが、フィードバックが不明瞭の原因。	○広報広聴委員会で主催する手法はやめて、市民の意見が必要なときに各委員会等で開催する。	○広報広聴委員会で検討する。